わたしは“白鷹町（ふるさと）”で働いています。

株式会社 川崎精工
鈴木　脩矢（しゅうや）さん（十王・19歳）

就職にあたり、黙々と打ち込めるような製造業を考えながらふるさと白鷹町にも貢献したいという思いで就職先を考えていたところ、弊社と出会い高校卒業を期に入社しました。

弊社では、自動車部品や医療機部品をはじめ半導体製造装置部品など、さまざまな種類の部品を製造、加工しています。入社から間もなく１年を迎える私ですが、上司や先輩の方々に、優しく丁寧に、時には厳しく教えていただきながら、現在は加工作業の一端を担っています。見るもの聞くもの全てが初めてのことばかりで、分からないことはそのままにせず、その都度確認しながら作業するように心がけています。今後はプログラムを組み、製品を加工し、一から完成品を作り出せるよう、技術を習得しながら、ものづくりの精神も養っていけたらなと思っています。

働きがいもあり、職場環境も恵まれている弊社で、ものづくりで地元を盛り上げていけるよう、これからも日々頑張ります。

色々と見に行きたいです！　映画鑑賞が趣味で

企業データ

■株式会社川崎精工
（白鷹町大字横田尻 3624-1）
【事業内容】アルミダイカスト加工･マシニング加工･旋盤・ドリミング・ブラスト・フライス削り出し加工・治工具製作
【従業員数】34 人
【問い合わせ】
☎ 85-0175

あゆみしる
白鷹町歴史民俗資料館

みんなで つむぐ 物語

白鷹町大字十王
2558 番地 1
☎ 88-7160
開館日：金・土・日
時　間：9時～ 17 時

先月のかわいいお客様。愛真こども園の年長さんたちです。

千歯扱きの脱穀に挑戦したり、籾摺り臼（キズルス）を４人がかりで動かしてみたり。企画展で展示中の米を選別する万石通（まんごくどおし）の実演では、流し口から米が流れると園児たちは歓声を上げ、落ちてきた玄米と籾を身を乗り出して観察していました。小さな手で米を握りしめたまま「もう一回やって！」と嬉しいリクエストもありました。また、顕微鏡で籾や玄米を観察しながらでんぷんについて説明をすると、背伸びをして真剣に聞いてくれました。

見たこと、聞いたことを感じたままに表現して、全集中で学ぼうとする園児たちの姿に触れ、多くの子どもたちに白鷹の歴史を伝えられるよう、継続的にお話できる機会を設けていきたいと強く思いました。

小さな子どもたちも虜にする企画展、絶賛開催中です。ぜひご覧ください。

▲万石通を観察

◆企画展「粒粒辛苦～時には幸福～展」開催中！
期　間：12 月9日（金）～3月 12 日（日）

第８回 芳賀秀次郎賞 受賞作品

■最優秀賞

「おおあめ」　東根小１年　すずき　つむぎ

■優秀賞

小学生の部	「わたしのじまんのにいに」	鮎貝小１年	こぐち　ひいろ
	「変わった自分」	東根小６年	鈴木　沙那
中学生の部	「やりづらい自由」	白鷹中２年	安部　心陽

■佳作（小学生の部）

「ぼくはだいかいぞく」	蚕桑小１年	こぐち　ようじろう
「おまつり」	東根小１年	ひらい　めい
「すいかわり」	荒砥小１年	おおたき　みやか
「ららねぇはライバル」	蚕桑小２年	岡部　葵
「冬の日の朝」	荒砥小３年	小林　唯愛
「お米のメロディー」	東根小３年	山田　侑季
「初めての一本」	東根小４年	髙橋　結羽
「大好きなじっちゃん」	東根小６年	志田　莉陸
「責任って」	鮎貝小６年	齋藤　那菜
「夏休み」	鮎貝小６年	山口　獅恩

■佳作（中学生の部）

「幸せってどんなこと？」	白鷹中１年	田口　陽葵
「三度目の正直」	白鷹中２年	中嶋　佑飛
「私が大事に使うもの」	白鷹中３年	髙梨　瑚太郎
「私のパートナーは」	白鷹中３年	田宮　悠羽

■佳作（高校生の部）

「エンドレス」	荒砥高１年	柳谷　優衣
「四時間目」	荒砥高１年	馬場　眞結子
「人生」	荒砥高３年	鈴木　美空

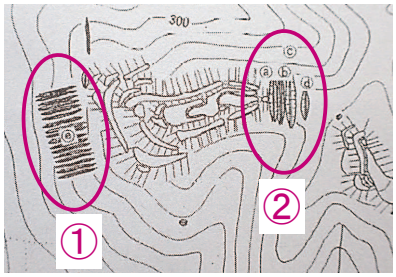
さんぽ道 白鷹町史談会

中世城郭・杉沢館（すぎさわだて）

戦国の世、各地に城が設置され、戦に備えていました。町内では31件の中世城郭が調査されています。荒砥八幡のある荒砥城、鮎貝八幡の鮎貝城は当時の遺構がよく残っており、訪れやすくもあります。しかし、このような城跡はまれで観光には不向きな場所にあることも多く、今回ご紹介する杉沢館は後者の環境にあります。

畔藤字杉沢は、大同年間（８０６～８０９）開山と伝わる杉沢観音のある歴史の古い地域です。観音堂から北へ坂道を下ると杉沢中央公民館があり、東側の小山が杉沢館です。館の歴史は不明ですが、非常に堅牢な防御の拠点です。町内でも珍しい畝状竪堀（うねじょうたてぼり①）は、直線の堀を何本も並べて兵士が左右に動けないようにし、東側の堀切（ほりきり②）は、深い堀で兵士が真っすぐに本丸へ近づけないよう進路を断っています。標高３５０ｍの小さな山ですが、防御設備のため直登しづらく、また人が集まりやすくなり、そこを本丸側から弓矢で射られてしまうという、攻めにくい城になっています。（白鷹町史談会　石井紀子）

①畝状竪堀の跡（矢印）



杉沢館の略測図